

風土記の丘の花だより⁹⁵

今、そしてこれから見られる植物(2021年7月17日)

この頃は大気の状態が不安定で突然雨になったり、雷が鳴ったりします。熱中症とともに、くれぐれも気をつけたいものです。今、園内では、なぜかオレンジ色の花が目立っています。ヤブカンゾウ、ヒメヒオウギセイセン、オニユリ、ヒオウギなどです。でも、今回はそれに限らず、目立たない花も紹介します。



水辺が好きなシロバナサクラタデです。タデの仲間の花にしては花びらが大きく華やかに見えます。タデの仲間の花はピンク色系が多いですが、この花は純白です。それで見分けが難しいタデの仲間にあって、間違ふことのない花です。もうすぐ近くでポントクタデも咲き始めることでしょう。



先のオレンジ色の花のところで紹介していますが、オニユリが咲き始めました。細い茎の割に花が大きくその重さに耐えかねてよく倒れてしまいます。花びらには(グロテスクなまでの)斑点があり、雄しべが大きく飛び出しています。よく観察すると、葉の付け根に黒くて丸い物が付いています。それは「むかご」といって、ヤマノイモなどのむかごと同じで、それが落ちて増えることもできます。



秋の七草の一つ、クズの花が咲き始めました。特に大池の周りにはたくさん生えています。道に落ちている紫色の花を見て「この季節にフジ?」と思って辺りを見てみると、この花が咲いていました。フジとは反対で房が上を向いて咲きます。クズは生育が旺盛でいくら刈ってもすぐに延びてきます。かつてはくず粉の原料や薬用として掘られましたが、今ではほとんど利用されることもなく、延び放題です



春のはじめ、きれいな薄黄色の花を咲かせていたシキミの木に実ができています。今年は去年よりたくさん実りました。星のような面白い形をしています。熟すと裂けて中から種子が覗きます。でも有毒ですから要注意。まあ食べない限りは大丈夫。 松下